

平成31年度 学校自己評価表

計画段階・実施段階

福岡県立福岡農業高等学校長 印

(全日制)

学校運営方針		学校運営計画 (4月)		評価 (3月)
昨年度の成果と課題		年度重点目標	具体的目標	
<p>成果 1 教科、科目の特性を踏まえ、アクティブ・ラーニングを用いた授業改善やICT研修を教務部、研修部を中心に進めることができた。</p> <p>2 生徒の希望進路実現のため、進路指導部、3学年を中心に教職員全体で指導を行い、全員の進路を確定することができた。</p> <p>3 各学科で教育内容の広報活動を積極的に行い、企業や行政、異校種にも広くに紹介することができた。</p> <p>課題 1 学校として将来ビジョンを構築し、時代にあった教育活動を実践する。今後も授業改善を図り、授業の中で生徒が身につける力や目標・評価基準を明確化する。</p> <p>2 基本的生活習慣の確立と中途退学者の防止について、チームとして組織的な取り組みを実践する。</p> <p>3 各学科の特徴や強みを明確にしたうえで生徒募集を行い、目的意識の高い志願者を確保する。</p>		<p>常に授業改善に取り組み、生徒が自ら学ぶ意欲を喚起させ、それぞれの目標・評価基準を明確にし、確かな学力の向上を図る。</p> <p>キャリア教育の充実を図り、生徒の希望する進路実現に向けて、早朝からの組織的、体系的指導を行う。</p> <p>本校の特色を小学生、中学生、保護者に理解してもらい、10年後を見据えた意欲ある志願者の募集を進める。</p> <p>SPH(スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール)の研究成果を生かし、専攻科との連携を図り農業教育の充実、発展を図る。</p> <p>「鍛ほめ福岡メソッド」を推進し、10年後を見据えた学校構想「ワンステップアップ構想」の構築を行う。</p> <p>人権教育の推進を図り、中退防止、いじめ防止、差別のない健全で安心・安全な学校運営をチームとして行う。</p>	<p>学習意欲を喚起する内容やICT活用、アクティブ・ラーニングの手法を用いた授業改善を図るために、職員研修会を積極的に実施する。</p> <p>各学年と定期的な協議を行い、3年間を見通したキャリア教育プランの充実を図る。生徒への指導は全教職員であり、希望進路100%の実現を目指す。さらに、国立大学への進学者を輩出するため、他校の指導法について学ぶ機会を設ける。</p> <p>中学校訪問を定期的に行い、目的意識を持つ生徒の志願者の確保に努める。体験入学、中学校への出前授業を充実し、ホームページ、広報誌を生かした広報活動を促進する。また、各科の特色ある教育活動について、実践の過程が分かるような広報を推進する。</p> <p>専攻科との連携を推進し、専攻科特別講義を各学科の年間指導計画に位置づけ、専門性の向上に取り組む。</p> <p>地域との連携や関係機関との連携を推進し、学科の専門性を発揮する。特に、学科間や異業種間の連携により、新たな価値を創造する。</p> <p>いじめや人権・同和問題等の解決を図るため、人権教育を充実させる。そのため、保護者も研修会への参加を促し連携した指導を行う。さらに、個に応じた対応が迅速にできるよう、支援委員会等を定期的に開催し、生徒指導を教職員で共有して、組織的に行う。</p>	
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価 (3月)	次年度の主な課題
教 務	・新学習指導要領の趣旨を踏まえた教育課程編成についての準備 (教育課程編成の手引参照)	・教育課程編成に対する学校の基本方針への共通理解の促進		
	・中学校等との連携及び目的意識を持った生徒募集の推進	・教育課程編成のための事前の研究・調査の周知と実施 ・年度3回行っている中学校訪問において、より効果的な生徒募集の在り方の検討と実施 ・年度2回行っている体験入学において、本校の学習内容や特色ある取組を中学生に最大限に理解してもらう方策の検討		
企画・広報	・行事の運営における分掌間の連絡・調整	・分掌間で早期に連絡調整をとり計画立案、実施。		
	・保護者・同窓会、関係中学校との継続的信頼関係の構築	・外部団体との連携・調整を図り対応する。 ・行事の案内の分掌や広報誌を通して保護者に情報を提供する。 ・PTA理事会・役員会との連携を強化。中学校PTA等の学校見学の内容充実。		
研修・情報	・学校教育活動の課題解決に向けた職員研修を企画・実施する。	・各部と連携し、課題解決に向けた研修内容を決定し実施する。		
	・情報教育の推進と環境整備、HPの充実を図る。	・ALの手法を用いた授業を実施し、生徒の能力を伸ばす。 ・機器の環境整備と、ICTの活用推進。 ・HPや学校案内を通じ、教育内容の発信を行う。		
1 学 年	・マナーと規律を守る態度を育てる。	・あいさつ、提出物の徹底。		
	・将来を見通し、目標設定ができる生徒の育成	・規範意識を高める。 ・自ら考え、行動する態度を育成する。		
2 学 年	・規律ある学校生活を送り、自尊意識をもって他者を理解し尊重する態度を育てる。	・集会等での聞く態度の徹底、あいさつ、時間厳守の徹底。		
	・目的意識を持った生徒の育成	・規範意識を高める。 ・面談やホームルーム活動において、自己理解を深めるとともに、早期の進路目標の設定を促す。 ・定期考査時の家庭学習の習慣化を目指す。		
3 学 年	・進路実現100%を目指す。	・挨拶・言葉づかい・身だしなみ指導の徹底を図る。		
	・リーダーシップ力の育成	・進路指導部・保護者・学年の意思統一を図る。 ・行事等に意図的に生徒を関わらせ、経験を積ませる。 ・学年団で団結して取り組む。		
生徒指導	・基本的生活習慣の確立と人権意識の高い学校をつくる	・チェック指導を含めた頭髪服装点検を全職員共通認識のもと月1回行う。 ・立ち止まっただけのあいさつを奨励する。その意義を生徒指導・教務・進路など関係部署と連携を取り、職員・生徒共通認識のもと取り組む。		
	・生徒会活動を中心としての学校活性化を図る	・生徒の発想を反映して学校行事を立案・計画・実行し、成功させることにより生き生きと活動する生徒をつくる。 ・部活動指導員の活用などの様々な取り組みを行い、加入率の向上を図る。年度末の加入率75%を目指す。		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
保 健	・生徒達が自分の心や体に興味を持ち、理解し、健康な生活を送れるようにする。	・生徒の興味・関心を惹くような保健だよりの内容の工夫と発行。		
	・清掃かきくけこ(感謝・気付き・工夫・謙虚・心も綺麗)が身についた生徒の育成。	・定期的に保健委員会を開き、各クラスに浸透するよう呼びかけをする。 ・全員が掃除に対する意識が高まるような美化コンクールの内容の検討。 ・各学年との連携による学年集会での呼びかけなど。		
人権・同和教育	・学校生活アンケートのより有効的な活用に取り組む	・実施と集計、用紙提出の徹底 ・生徒の意識を高める呼びかけ		
	・各学年や分掌との情報の交換や共有を密に行なう。	・生徒支援委員会だけでなく担任会とも連携を強める。 ・外部の研修会の情報提供を強める。		
進路指導	・3年生の進路内定100%を実現する。	・企業訪問においては各学科の特色を活かすための新規企業を開拓し、生徒一人一人の進路実現を目指す。 ・専門高校の推薦枠や指定校推薦を利用し、四年制大学への進学者10名以上を目指す。 ・国公立大学進学に対応する特別課外授業を実施する。		
	・各学年と連携した進路指導体制の確立	・進路指導部会議を定例で実施し、各学年との連携を図り進路指導を充実させる。 ・校外の進路ガイダンスを計画的に実施し、徹底した生徒面談を行い、進路意識を高める。		
職業教育	・キャリア教育の推進による進路保障(GAP教育やHACCP教育を各科に浸透させ経営感覚を持った社会人の育成)	・各学科と連携し校内(生徒が学習活動を行う場所)のリスク軽減を図る。 ・各種検定試験や資格取得に向けた指導体制の強化。		
	・農業クラブ・家庭クラブ活動の活性化(生徒主体の研究を行い、自ら成果を発信できる能力の育成)	・学科・地域間連携を積極的に行い全体的な底上げを行う。 ・プロジェクト推進委員と協力し、農業・家庭クラブ上位大会出場を視野に入れた指導の徹底。(プロジェクト指導研修会の内容を共有化)		
都市園芸科	・SPHのまとめ(最終研究報告会)を充実したものにし、指定終了後の学科の在り方を検討	・最終研究報告会の内容を固め、計画的に生徒への指導等準備を実施 ・他学科、専攻科と連携を図れるカリキュラムの検討及び種類の検討		
	・生徒の力を付けると共に、生徒募集につながる活動を実施	・前年度に引き続き、HPの活用、中学校訪問、出前授業等を実施 ・生徒の主体的な活躍の場を設定(GLOBALG.A.P認証・栽培等の指導など)		
環境活用科	・学科としての学習内容の充実と進路実現に向けた指導を行う。	・専門性を活かし大学進学者に対しての指導を行う。 ・中学生に対して、生徒募集につなげるような取組を行う。		
	・学習意欲向上を図るための指導を行う。	・生徒自らが積極的に資格取得ができるように指導を行っていく。 ・より専門的な学習を行い、発表などのチャレンジができるように指導していく。		
食品科学科	・キャリア教育の推進、専門教育の充実と生徒の進路実現	・生徒主体の学科集会を行い自主性を醸成するとともに、職員の講話等を計画的に実施することで、キャリア教育の推進を図る。 ・専門教育の充実に向け、外部講師による指導や職員の指導体制を整え、進路実現を図る。		
	・地域社会との連携、ニーズに対応できる人材の育成	・学科の特色を生かし、地域及び異校種間との交流事業を行い、コミュニケーション能力を高める。 ・生徒が主体的に交流事業を運営することにより職業意識の向上およびキャリアアップを目指す。		
生活デザイン科	・専門教育の充実と学習内容の系統化	・新設「生活と福祉」「服飾手芸」において本校の特色を生かす授業計画を立て、主体的で対話的な学びをつくる。 ・外部講師による研修や家庭クラブ活動を系統化し、評価の在り方を明確にする。		
	・コミュニケーション能力の育成と生活産業に係る職業人の育成	・これまでの取組を系統化し、異年齢集団とのコミュニケーション能力の育成を図る。 ・学習の成果を発表する機会を設け、表現力・創造力を育て、進路実現を図る。		